

会議録

会議の名称	令和4年度第2回加東市子ども・子育て会議
開催日時	令和4年12月27日(火) 午前10時00分から午前11時10分まで
開催場所	加東市役所501会議室
<p>議長の氏名 (会長 飯野 祐樹)</p> <p>出席及び欠席委員の氏名</p> <p>【出席委員】10人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・飯野 祐樹 ・浜口 大介 ・合田 忠弘 ・本山 早苗 ・西田 千枝子 ・井上 益子 ・岩崎 吉泰 ・森本 史子 ・服部 公一 ・橋本 一 <p>【欠席委員】3人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岸 祐馬 ・津田 雅世 ・福原 かをる 	
<p>説明のため出席した者の職氏名</p> <p>なし</p>	
<p>出席した事務局職員の氏名及びその職名</p> <p>教育委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> こども未来部 こども教育課長 井澤 彰子 同副課長 稲岡 めぐみ 同係長 丸山 久美子 同主査 金高 将彦 同主事 西村 光 	
<p>議題、会議結果、会議の経過及び資料名</p> <p>1 議題 (議事)</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 第2期加東市子ども・子育て支援事業計画 進捗状況報告 <p>2 会議結果</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) について 資料に基づき審議しました。 <p>3 会議の経過</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開会 (会長) ・資料確認 	

【議事（１）第２期加東市子ども・子育て支援事業計画 進捗状況報告】

《事務局から資料①、②及び第２期加東市子ども・子育て支援事業計画進捗状況シートに基づき説明》

（委員）

定員を超えての弾力的な運用で受け入れ可能ということですが、定員よりもたくさんのお子さんをお預かりする中で現場の方が何か困っていたり、業務の負担が大きくなっているかと思います。市内のこども園・保育所では、例えば1箇所などに集中し、その園だけに負担がかかっているのではないかと心配しますが、そのあたりの状況を教えてください。

（事務局）

まず入所につきましては、園との調整を行いますので、園長に新規入所についてはご相談し、入所が可能であるかどうかを確認しています。また、園によって受け入れ可能人数は、0歳から5歳児の定員であったり入所しておられる状況も違うので、相談した上で行っています。

（会長）

突出して人数が偏っているという点があるという状況ではないということでしょうか。

（事務局）

そうですね。まずは保護者の希望に沿って調整は行いますが、定員がいっぱいなど希望に沿えない場合は他の園に入所になります。

（会長）

入所申請の段階である程度調整が行われてからの入園という形になっているということでしょうか。

（事務局）

そのとおりです。

（委員）

園の実際の現場の状況はどうなのでしょう。

（委員）

園も事務局からの説明のとおり、調整していただきながらという所になっています。保育園部の定員が60名で、現在74名を預かっています。その人数が各クラスに入って可能な広さがあるかどうか確認した上で、もう一つは保育士の数が大事になってきて、各年齢によって1人の保育士が保育できる人数が限られています。例えば0歳児クラスでは1人の保育士が3人、1歳児・2歳児になると1人の保育士が6人保育できることになっていますので、その保育士が確保されていることが条件で受け入れますので、それが確保されていなければ受けられません。

ですので、保育士の数に合った子どもを預かっているということになっていると思います。

（会長）

認可を受けない附属幼稚園の部分で学校教育の希望人数が31と出ていますが、53と31の違いは何でしょうか。

(事務局)

53人というのが純粋に幼稚園に通われている方で、31人というのが幼稚園の教育時間が修了した後に預かり保育を利用されている方というように分けています。

(委員)

1クラスの定員っていうのは文科省か厚生省で決まっていると思いますが、各市町によって定員35人のところを30人にするなどは条例などで対応出来るのでしょうか。

(事務局)

0歳が3人などの基準は国が定めていますが、それをさらに厚くするというところで、条例で定めることは可能です。

今、加東市の条例では国の基準通りにしていますが、4・5歳児だと保育士1人に30人が基準ですが、園の規模によっては4歳児で15人ということもあります。また、最大規模の加東みらいこども園では、1クラス30人になっていますが、それぞれ担任と副担任という形で二人の保育士に加えて、日中にはフリーという形で補助に入っている保育士もあるなど、実際には30人で1人ということでの運営はしていないこともあると思います。

(会長)

他にはないでしょうか。それでは、資料①については以上にし、資料②についてご意見ご質問のある方はおられますか。

表について(3-1)1号認定による利用が5,008人日になっていますが、人年ではないでしょうか。

(事務局)

資料を修正します。

(会長)

子育て支援のファミリーサポートセンター事業など修正点が多分あると思いますので修正いただければと思います。

ほかになにかございますか。では、最後に第2期 加東市子ども・子育て支援事業計画の進捗状況シートにつきまして、検討していきたいと思います。ご意見ご質問等を願います。

(委員)

不登校の児童についての支援ですが、今どれくらいの不登校の生徒がおられるか、どのような支援をされているかまたその結果などの状況を知りたいです。

(事務局)

本日、事務局として参加しているのが、こども教育課のみの職員ですので、今回この不登校児童生徒への支援に関しましては、学校教育課が担当しておりますので、質問のどのくらい的人数で、どのような支援をされているか、またその結果につきましては後日、紙面にて学校教育課に確認した上でご回答させていただきたいと思いますので、申し訳ありませんが、本日この場でご回答することができません。

(会長)

突然で申し訳ないですが、個人情報が含まれない程度で加東市の状況をお話ししていただけないでしょうか。

(委員)

加東市全体のことはお答えできないですが、市内では不登校児童が増えているのは確実です。それに対する支援ですけれども、ここに書いてあるようにスクールカウンセラーが5人配置されていて、月1回、こどもと面談、保護者と面談、スクールソーシャルワーカーも加配されていて、その方も月1回来てくださっています。

その違いは、スクールソーシャルワーカーについては外向きの方と心を繋ぐための社会福祉課であり、健康課であり、そういうところと繋ぐ医療と繋ぐっていうことをしてくださっています。スクールカウンセラーについては保護者の悩みとか、子どもの悩みを直接聞くっていうことをしてくださると同時に、学校職員とも話をし、このようなケアをしていったらいいというようなことをアドバイスしていただいています。

先日も、サポート会議を行い、少しでも改善できるように働きかけているところです。それによって全く休んでしまうということがなく、少しずつでも学校と繋がれるような良い方向は確かにあると思います。

同じ方向でしか見られない学校職員と全然違う目で見てくださいる方からのアドバイスは、勉強になるので非常にそこを読み直すということと、それから学校教育課だけではなくて福祉総務課や健康課などの色々なところと繋がりをしながらやっているところもあります。

(委員)

不登校の原因は何かありますか。

(委員)

原因は児童によって違って、家庭の状況や子ども同士のトラブルなどの場合もあります。以前であれば行事や遠足だったら来れる、だけど普段の授業は来れないという子もいましたが、行事が来れずに、普段の授業を来れるとか、昼から来れるとかいろいろな状況ですので、原因は一つではなく、一つずつほぐして、例えば成育歴であればお父さんやお母さんを私達がサポートする、というように児童が少しでも変わるようなことをしています。

(委員)

非常にきめ細かくたくさんの方に分野に当たって整理されている。その中でも市が特に力を入れているのが小学校と中学校の一貫教育という姿勢が非常に注目を浴びていると思いますし、私もそこに 관심이ございます。その中で今の不登校の問題、小学1年生から中学3年生までの、あるいはもっと言えば、小学校就学前のところにも原因も多々見られるわけですから、解決の一つにはなりますので、願わくば、小中一貫をさらに伸ばしていただいて、乳幼児からの中学校までの一貫を加東市は目指してほしいし、あるいはもう一つ掘り下げて、胎児教育の分野で保健分野の方と連携されていますけれども、0歳から中学3年生の卒業するまでの間の一貫教育を整理していただけたら、市民としては非常に誇れる支持できる分野になるのではないかと考えております。

小中一貫の中で2ページに、小中学校の連携強化とありますが、目指しているところはもう全部一つにしようというところですから、総合学習と生活科のカリキュラムを作成しただけではなく、当然教科の中に入り込まないといけませんから、小中の教育という具体的なカリキュラムが当然されているのではないかと思いますけれども、自信持って変えていただけたら安心します。加えて何年か先には市内全部小中一貫になるわけですが、心配するのは小学校の跡地が教育とどう関わるのかということと、地元的生活とどう関わっていくのかということがまだ見えません。なので、ただ教育分野だけの校舎だけの建物じゃなく、あとのことも示していただきたいなと思います。そういったところが一つの願いです。

もう一つ非常にいいなと思っていることがあります。それはこのコロナ禍の中で起こってきた現象の中で、ケーブルテレビの活用ということ。自宅でケーブルテレビ

をつけましたら、小中学校の先生が授業をされています。これは加東市ならではのと思っています。ケーブルテレビがあるからこそできる教育媒体だと思います。

市がこんな風に活用されているということでもどんどん進めてほしいと思います。これについては情報提供という32ページに書いてあるこの分野ですけれども、教育だけじゃなくて教育情報の提供分野については非常に大きな取組を始めていると思いますので、この分野を小学校の先生は小学校の先生で他の学校の先生と連携されて、例えば一つの授業をやられるとどの市内の子どもも同じ教育を受けられる、例えばこの休み期間中であって授業の補習というようにも活用できますし、今の情報提供にもそういった教育テレビを利用して教育を進めていただけたらうれしいです。お願いばかり申しましたけど気がついたことも含めてそういうように感じました。

(事務局)

大変ありがたいお言葉ありがとうございました。こども園ともっと小さいところから小中幼保が繋がっていくところ、今、国の方でも「架け橋プログラム」という園児が卒業してから1年生になるときに滑らかに接続ができるようにということで教育・保育の内容と学習との段差をできるだけなくしていこうというような働きかけがありまして、実際、保育現場の方でもそれに向かって少しずつ私達が園でやっている保育が教育の中に小学校の教科がどのように混ざっていくのかその先にあるものがどう繋がっていくのかという考え方をしていくようにしています。今、小学校にもアプローチをしていくという、加東市保育協会が公開保育をされている部分にあたって、市内の小学校の先生方に教育・保育現場を見ていただいています。また小学校の方にも園から出向いてお互いのカリキュラムの内容を繋げていくような働きかけをしなくてはならないと思っているところでございます。

今年度のケーブルテレビを活用した教育についてご意見いただきまして、小学校の先生方にお世話になることが多いと思いますし、ケーブルテレビのないご家庭もありますので、その辺も漏れのないように進めていけたらなというふうに感じました。

(会長)

保護者の立場から小中一貫についてどのように考えておられますか。

(委員)

保護者の立場、親の立場としても、特にこのような結果になったからこういうことになるのかというイメージもまだ正直私の中ではないので、どういった形で進んでいくのかを見てからの判断になってくるのかなということ考えています。

まだそこまでの小中一貫についてはある程度理解はしますけれども、私自身個人的な意見ですけども、そこまでまだ魅力的には思っていない部分も多少なりともあります。

(会長)

ありがとうございます。更なる情報発信が必要になってくると思います。

(委員)

保護者でも小中一貫に関しましては、いろいろな意見を聞きます。

保護者的には、制服が5年生からいることや、中間期末テストを始めているとか聞いたりするので、小学校からそういうことに子どもがついていけるのか不安はありますけど、良い面もあると思います。楽しみな面もありますし、不安な面もあるかと思っています。今後どうなっていくのか、自分たちがなってみないとわからない部分もあります。

(会長)

ありがとうございます。

私たちの幼児教育側からの小学校との連携とか接続っていうことは、よく考えてはい

ますけれども、小学校側から見て、保育施設との連携や接続の難しさというところはどこにあるか、何かご意見いただければなと思いますが、いかがでしょうか？

(委員)

以前から保育施設を見に行かせていただいています。どの学校も教職員が2人ほど行って、子どもたちの様子とか、どんな保育をされているのか、どんな幼稚園教育をされているかというのは毎年見に行っています。

ただ、この数年はコロナの影響で、見に行くことができず、教師同士の話に終わっていることも多いです。今回も見に行くタイミングで、行けなかったりしました。ずっと過去から勉強しておりますし、話し合いにも代表者が必ず行っています。

1年生になって、そのときにもう1回、上の先生と話をし、こんなふうにしていただいたらとかいうのもしていますし、保育園の先生から「この児童はこんな子だったんですけどどうですか」って聞かれて、「今こんなふうになっています」とか、「こういうところが見えてきました」という話をし、必ず連携をしております。

(委員)

サポートファイルは、園でも作られていると思いますが、それを小学校に譲ってあげて、それを先生たちが見ながら仕事されているのでしょうか。

(委員)

サポートファイルは、園から小学校へ引き継がせていただいています。毎年、毎学期、保育園からもちろん上がってきた子も小学校からスタートする子も教職員と保護者が話して、この内容でいいですかって言って確認をしているので、それはもちろん中学校にも引き継ぐ、中学校で必要であれば高校へも引き継ぐ、というふうにずっと活用しています。

ただ、途中でもういらないですよってという話もして、その時は保護者の同意のもと終了するようにするなど、対応しております。

(委員)

この夏に東条学園に視察に行きました。中学生の生徒が各教室の説明をしてくれて、すごく教室が明るくなってすごくうれしいですとか、天井がすごく高いので集中して勉強ができますとか、子どもたちが身近に感じたことを話してくれました。

良いことばかりですけど、子どもたちにとっては新しい建物でうれしいなっていうところですが、先生たちは職員室でばたばたされていて大変そうでしたが、子どもたちは元気にそういうふうを感じてくれているようでうれしく思いました。

中には一緒になって嫌だっていう児童もいらっしゃるかと思いますが、部屋が明るくなるなど環境が変わることで、これだけ子どもたちが明るくなるのかなと感じました。

(委員)

2ページの生涯学習課のひょうご放課後プランが年間156回で延べ2,399人と数多く参加されていますが、これは小学生チャレンジスクールの参加者と同じ方が参加されていますか。私も3世代の交流体験事業として何回か体験事業をしているのですが、スポーツなどの習い事が日曜日にあるなど、子どもがものすごく忙しくしているようで、土曜・日曜に開催しようと思っても子どもを集めるのに必死になっています。

同じ方が同じように参加されていたらわかりますが、そうでなければどのように募集しているのか教えていただけたら、次に役立ちと思いますので、よろしく願います。

(事務局)

延べ2,399人ということですが、これは同じ方が3回参加されれば3人と計上さ

れているかと思えます。よって、同じ人が何度も参加されている場合は、実人数とは違います。また、担当課も子どもの集め方については、委員と同様に習い事などで、子どもが参加してもらうのに対応に苦労しているようです。

(委員)

この地域子ども教室っていうのは週に1回、平日の放課後にあります。3時から行く子もいれば、4時から行く子もいて、5時半ぐらいに保護者が迎えに来るっていうことになっています。4月の段階で募集があり、申し込んで参加している状態ですので、同じ子が毎週行っているという形です。そして福田の場合は、小学校の隣にある第1体育館の教室に参加しているので、帰りしに行く感じです。

多分この学校もそういう形で家に帰る途中にあるというような形でされていると思いますので、帰ってから遊ぶっていうのがなかなか今ないので、子どもたちも楽しみにしていて何をしているかっていうと、最初宿題して、その後自由に遊ぶ、そこにボランティアの方がいてくださって。一緒に遊んだり、危険を回避するように声をかけてくださったり、っていうことがあるので、子どもたちは本当に、楽しみにしています。

何をしようということじゃなくて、自由に遊んでいます。ただ、いろんなこと、好きなことができるように、例えば折り紙やいろんなグッズを用意してくださっていて、本当にありがたいです。子どもたちは喜んで行っています。

(事務局)

アフタースクールとの兼ね合いの部分で補足させていただきます。

地域こども教室は福田小学校横の第一体育館で、アフタースクールは社児童館やしろこどものいえでやっています。市内の地域こども教室は、物理的に少し離れているところと、地域子ども教室とアフタースクールが敷地続きでやっているところもあります。

社アフタースクールなど一緒に敷地でやっているところでしたら、お子さんが地域子ども教室に行ったりアフタースクールに行ったりということも可能になっています。物理的に離れているところについては、お子さんだけで1人で歩いて行き来することができないため、別々に参加していただいているという状況になります。

ひょうご放課後プランという名前になっていまして、地域子ども教室と放課後児童健全育成事業というのはどちらもお子さんの放課後のことですので一体的には進めていくことを目指しております。

《議事終了》

・事務連絡

加東市子ども子育てに関するアンケート案の修正について
委員報酬について

・閉会挨拶（副会長浜口委員）

・閉会

4 配布資料

- ・第2期加東市子ども・子育て支援事業計画 令和3年度の進捗状況（教育・保育事業）（資料1）
- ・第2期加東市子ども・子育て支援事業計画 令和3年度の進捗状況（地域子ども・子育て支援事業）（資料2）
- ・第2期加東市子ども・子育て支援事業計画進捗状況シート

令和5年2月24日

会長 飯野祐樹